

## 平成30年度 新居浜市立図書館協議会 記録

- 1 日時：平成31年3月1日（金）15時30分から16時30分
- 2 場所：新居浜市立別子銅山記念図書館 多目的ホール
- 3 出席委員：高橋委員、酒井委員、渡辺委員、神野委員、玉井委員、内田委員、吉村委員、寺尾委員、濱田委員、三原委員
- 4 欠席委員：永井委員、大西委員
- 5 事務局：横井館長、杉田副館長、久葉係長、川上係長
- 6 傍聴者：0名
- 7 会議概要

### (1)会長・副会長の選出について

会長に永井委員、副会長に内田委員を選出

本日は永井会長は病気のため欠席により、事務局の久葉係長が進行を務めることになった。

### (2)平成30年度事業報告について

（久葉係長）別紙資料により説明

### (3)平成31年度の実業実施について

（久葉係長）別紙資料により説明

### (4)図書館サポーター制度について

（杉田副館長）別紙資料により説明

### (5)図書館整備事業について

（杉田副館長）別紙資料により説明

（内田副会長）サポーター制度について活動内容は選べるのか？

（杉田副館長）サポーターの活動内容はこの限りではなく、ほかにもあれば相談によりお選びいただける。

（三原委員）1月の休館期間は図書館システムの更新とあったが、自動貸出機導入以外に変更点はあるのか？

（杉田副館長）図書館のシステムは5年ごとに更新している。今回自動貸出機を2台導入することにより貸出の列のスピードアップになっている。

また郷土資料のデジタル化をすすめており、ホームページで見られる新居浜の資料も今回増加している。今後も充実をはかっていきたい。

（内田副会長）第2会議室を読書会で利用しているが、最近機の配置換えがあり窮屈になった。

例えばロビーに机を配置したりして会議室内の机を減らせないのか。また学生の利用はどのくらいあるのか。

（横井館長）学生などから自習スペースがないという意見が多く出ていた。特に図書館に対しては要望が多かった。当館では構造上新たに開設することはできないこと、また、閲覧室の座席を多くの学生が占領することにより一般の利用者に不便をかけているという現状もあり会議室の利用がないときに限って学習室として開放することにした。利用者数については常時管理しているわけではないのだが、先週

末には 20 人くらいの利用があったようだ。

ロビーに机を設置するというのは、空調の設定も充分でないこともあり、学習の環境としてはそぐわない。ホールは照明が暗いこともあり、今のところ会議室の利用を考えている。

座席数は、閲覧室の一般利用者の座席を確保するためにも 30 席程度の座席を考えている。現在は 32 席設定している。

(三原委員) 視覚障がい者への音訳ボランティアをしている立場から、新居浜の図書館に日本点字図書館が運営しているサピエ図書館の利用の検討を提案する。

著作権法は、視覚障がい者だけでなくその他の読むことに障がいがある人への利用へも拡大しつつある傾向にある。

サピエ図書館のダウンロードデータが利用できれば、視覚障がい者の読むことのできる書籍は劇的に増加する。

(久葉係長) 声の図書室やまびこさんには、録音図書を作成していただき図書館資料の充実に貢献していただいていることに感謝している。

(横井館長) サピエ図書館の導入の検討の前段階として、点字図書館のサービスを新居浜の図書館でお知らせし、市内のニーズをつかんだ上でサピエ図書館の予算要求にしなければいけないと考える。また点字図書館との連絡を密にすることも必要と考える。

(三原委員) ニーズを知ることは難しいと思う。図書館側から積極的に知らせることが必要だと考える。サピエ図書館は新刊雑誌も幅広く読める。視覚障がい者個人でも利用できるが、そこにパソコンの利用という壁がある。健常者でもパソコン利用には壁があるように視覚障がい者にとってはなおさらだ。そこに公共図書館が手を差し伸べるということも必要だと思う。いきなりは無理だとしても検討をお願いしたい。

(横井館長) まずは、現在ある制度は積極的に呼びかけるなど今できることは図書館で取り組みたい。まずは情報をつかんでいきたいと考える。

(内田副会長) 閉会のあいさつ

健康寿命に図書館が果たす役割が大きいという情報をきいたことがある。生涯学習の拠点としてだけではなく大きな役割があるのだと改めて思った。新居浜の図書館が益々発展することを願っている。